

小学生高学年向け 家庭科プログラム

自然の力をいかした快適な住まい



対象 小学校5～6年生

**関連する
教科** 家庭科
「快適な住まい方」

ねらい

- ・住まいの主な働きが分かり、季節の変化に合わせた住まい方について理解すること
- ・自然の力を生かす住まいの工夫を考え、快適な住まい方を実践する意欲をもつ

LIXILでは、世界中の誰もが、健康的に安心して暮らすことができ、資源やエネルギーを使いすぎない「住まいづくり」をめざしています。本プログラムでは、気候変動と住まいの関わりや自然の力を生かした工夫の大切さを理解し、風や光、熱をいかして快適に過ごす工夫を考えることで、将来「快適」で「健康」にいい暮らしを実践できることを目指します。

指導案
45分
×
3コマ

1時間目
LIXIL従業員による出張授業

- **家の役割について理解する (5分)**
自分にとって家はどんな場所?という問いから、家の役割と重要性を確認します。
- **気候変動と住まいの関わり (15分)**
・熱中症とヒートショックを例に、家の温度が健康や命に関わることを知り、快適な温度を保つ住まい方の大切さを学びます。
・家で暑さ・寒さを乗り切るアイテムを探すミニワークによって、電気の使いすぎは温暖化の原因になることを学びます。
- **自然のちからをいかした住まい方 (20分)**
日本の伝統的な家の事例を見ながら、地域の気候の特徴にあわせて快適に暮らす工夫(「通風」「遮熱」「創風」「断熱」「日射熱取得」)があることを知る。
- **質疑応答 (5分)**
質疑応答を受け、2限目と3限目の授業の流れを伝える。

2時間目
教員にてチャレンジワークを指導(自主学習)

- **前回の授業の振り返り (5分)**
前回学んだ「通風」「遮熱」「創風」「断熱」「日射熱取得」について確認する。
- **チャレンジワークの実施 (40分)**
ワークシートを使い、これまで学んだことを思い出して、暑さ、もしくは寒さの対策を風や光、熱をいかして快適にするための住まいの工夫をグループで考えます。

チャレンジワークでは課題の解決策を自ら考え、発表・対話することで子どもたちの自発性や探究心を育みます。

※1限目の授業から2週間以内に2限目授業を実施することを推奨します

3時間目
LIXIL従業員による出張授業

- **発表&投票 (30分)**
どんな工夫を考えたか発表します。いいと思った発表をひとつ選び、よかった点をフィードバックカードに書いて渡します。フィードバックカードと一緒に投票シールを発表したグループのワークシートに貼ります。
- **LIXIL従業員よりフィードバック (10分)**
LIXILから発表に対してよかった点をコメントし、フィードバックカードを差し上げます。
- **快適な住まいの最前線 (5分)**
LIXILが取り組む自然のちからをいかした住まいの最前線を紹介します。

※2限目の授業から2週間以内に3限目授業を実施することを推奨します

授業教材

スライド・冊子



快適で環境にいい暮らしを目指すためには、気候変動の原因である二酸化炭素の排出を抑えるために、電気を使わず、地域の特徴にあわせて自然の力をいかした住まいの工夫が大切だということを学びます。

シール



ミニワーク「暑さ・寒さを乗り切るアイテムを探せ!」では、自分が普段使っているアイテムシールを選ぶことで、普段の生活は電気に依存していること、電気の使いすぎは温暖化の原因になることを学びます。

ワークシート・フィードバックカード

〈ワークシート〉

〈フィードバックカード〉

自然のちからを活かして、暑い夏を涼しく、または寒い冬をあたたく過ごす工夫を考えます。考えたアイデアを発表し、よかった点を児童、LIXIL社員からフィードバックします。

動画



通風動画

実験キットを使い、空気の入口と出口をつくることで、効果的に空気の動きを利用することができる(通風の工夫)ことを確認します。



創風動画

室内に浮かぶ風船の動きを観察し、高い窓と低い窓を開けることで、空気の性質を利用して、空気の動きを創ることができる(創風の工夫)ことを確認します。

※教材の内容は一部変更となる場合がございます。

授業を受けた子どもの感想

- 授業で考えた理想の家を本当に作ってみたいと思った。世界の工夫されている家を見に行きたいし、地球にやさしい家に住みたいです。
- 家や住まい方が健康や環境などに大きくかわっていることを理解できた。自分の住む場所の気候によって、快適にするための工夫に違いがあることを理解できた。おもしろかった。
- 発表を聞いたりして、みんなの案を理解することができました。みんなの意見を聞いて、自分にはない考えが学べました。もっと発表を聞きたかったです。

授業開発に協力いただいた先生からのコメント

- 家庭科の単元をプロとともに実践的に学べるこちらのプログラム。しかし中身は実は理科や社会とも深く関係しています。実際に手を動かしながら学ぶことで、もしかすると子どもたちの探究心にも火が付くかもしれません。ぜひLIXILと共に学びをつくっててください。
栢之間 倫太郎 (新渡戸文化学園 Nitobe Future Partners)
- 「住まい」という、日々当たり前暮らしに暮らす居住空間にフォーカスを当て思考することで、日常的にできる「くらしの工夫」に気がつける児童がたくさんいました。窓の開け方1つで風の通り道が変わることや光の差し込み方で室温に変化をもたらせることができるなど、再生可能エネルギーが注目される今、人が自然と共生するたくさんのヒントがもらえる実践です。
小林 寿夫 (逗子市立池子小学校)